

Ⅳ. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価

(以下は使命・目的に基づく大学独自の基準の例)

基準 A. 社会連携

A-1 大学が持っている物的・人的資源の社会への提供

《A-1の視点》

A-1-① 大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育など、大学が持っている物的・人的資源の社会への提供

(1) A-1の自己判定

基準項目 A-1を満たしている。

(2) A-1の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

本学では大学の知的財産を地域社会に役立てられるように「地域資源活用研究センター」による活動を勧めている。

その中のひとつとして、地域に根ざした食育活動を展開するために地元の水産業者と共催して魚料理教室を実施している。企業側の目的は魚介類の消費拡大を目指すためであったが、大学と連携することで食育の観点を加え、青森県民の食生活向上を目指す活動へと発展させていくことができている。

《惣菜パンのレシピ提供 - 社会福祉法人への活動支援》

地域の社会福祉法人からの委託を受け、作業所で委託販売しているパンのレシピ提供を行っている。勤労継続支援B型・生活介護事業の一環であることから作業工程は複雑でないことが望ましいとされる。新規顧客を獲得するべく、若年層向けの惣菜パンのレシピを学生が考案している。本学は栄養士養成課程を有していることから、提供するレシピは栄養面に考慮したものを期待されている。

《ハニープロジェクト》

青森県の健康寿命アップを目指す活動の1つとして、本学の栄養士を志す学生の力を活用するため、地域企業と連携し、栄養面にも重視した商品の開発を目指して活動している。企業で生産している県産はちみつや地場産食材をいかした商品を考案中である。考案した商品については栄養に関する情報提供をしながら販売することで地域住民の健康に関する知識・意識の向上を目指すものである。

平成25年度青森県ライフ系プロダクト開発促進事業の1つとして採択され、健康を中核とした「青森らしさ、東北女子大らしさ」をアピールするというコンセプトのもと、スポーツ栄養学と時間栄養学の知識を盛り込んだアスリート弁当の開発、販売を目指している。また本事業の基本戦略に産学官連携があげられていることから、県内の弁当・仕出し屋さんとはコラボすることで、地域の活性化に貢献することを目指す。

【エビデンス集・データ編】

【エビデンス集・資料編】

【資料 A-1-1】 東北女子大学平成24年度公開講座・出前講義等の案内
(地域資源活用研究センター)

【資料 A-1-2】 東北女子大学平成24年度公開講座・出前講義等活動報告書
(地域資源活用研究センター)

(3) A-1の改善・向上方策 (将来計画)

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

[基準 A の自己評価]